

昭和11年の国産スポーツ用軽快車（1936年）



昭和11年、オリンピックが4年後に東京で開催されることが決まり、日本全体にスポーツに対する機運が高まりました。そこで、これまで主に荷物を運搬するための自転車を製作していたメーカーもスポーツ用軽快車の発売を始めました。

山口自転車が製作したこのスポーツ用軽快車はサドルとペダルをつなぐ部分が細い2本のフレームで造られていたり、当時の国産自転車では珍しいワイヤーで車輪の外側から押えるしくみの前ブレーキが使われていたり、デザインや機能はヨーロッパ製と遜色のないものでした。

しかし、日本がその後戦時体制に進んでいったためオリンピックは中止となり、スポーツ用軽快車の生産も後退していきました。

自転車文化センター 谷田貝一男